

「高配当株ファンド・高配当株ETF」の魅力と留意点

近年、日本では配当金による株主還元注力する企業が増加しており、高い配当利回りが魅力の「高配当株」に対する人気が高まっています。

高配当株は多数ありますが、個別銘柄の場合は企業業績等によって株価が大きく変動し、配当金を上回る値下がり損を被ることも珍しくありません。安定的なリターンを期待する場合は分散投資がポイントになりますが、高配当株に幅広く分散投資しているのが「高配当株ファンド・高配当株ETF」になります。

●配当利回りとは

株式会社は株主から資金を出資してもらい、これを元手として事業を行います。その結果得られた利益の一部を配当金として株主に還元しています。

配当利回りとは、この配当金の投資金額に対する割合です。計算式は「配当利回り(%) = 1株当たり年間配当金 ÷ 株価 × 100」となります。

例えば、株価が1000円で、1株当たり年間配当金が20円だとすると、配当利回りは「20円 ÷ 1000円 × 100 = 2%」となります。この場合、投資家は1000円の投資金額に対して、年間で2%の配当金収入を得られることとなります。配当利回りだけで比較した場合、利回りが高い銘柄のほうが魅力的になります。

●代表的な高配当株ファンド・ETF

高配当株にパッケージで投資できる代表的な投資信託として、三菱UFJアセットマネジメントが運用している「日経平均高配当利回り株フ

ンド」があります。これは、日経平均株価の採用225銘柄のうち、予想配当利回りが高い上位30銘柄に投資し、配当金収益に相当する分配金支払いを目指しているファンド。6月と12月の各15日に決算し、分配金を支払っています。

仮に2020年8月末に投資していれば、その後1年間で4.56%の利回りに相当する分配金を受け取ることができました。2021年8月末に投資したとすると4.93%、2022年8月末に投資した場合には5.96%の利回りに相当する分配金をそれぞれ1年間で受け取れています。しかも、プラスして値上がり益も得ることができていました。

次に、高配当株に投資する代表的なETF(上場投資信託)としては、野村アセットマネジメントが運用している「NF・日経高配当50ETF」があります。こちらは、日経平均株価の構成銘柄のうち、予想配当利回りが高い50銘柄で構成される「日経平均高配当株50指数」に連動する投資成果を目指しています。年4回決算

し(1・4・7・10月の各7日)、経費控除後の配当金全額が分配金として支払われます。投資金額に対する分配金利回り、過去の値動き等は「日経平均高配当利回り株ファンド」と類似しています。

図表1・2では、日経平均株価との連動を目指す三菱UFJアセットマネジメントの「eMAXIS Slim 日経平均」を比較の対象として加え、3ファンドの過去数年間の実績を紹介しているので、参考にしてください。

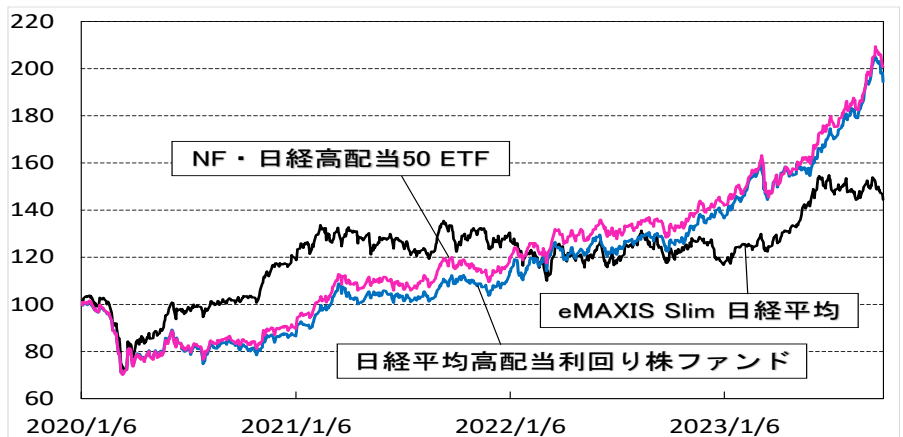
●留意しておくべき点

高配当株は、業績が安定的な大企業であることが多く、今後高い成長が期待できる企業は少ないといえます。このため、こうした高配当株で運用されているファンド・ETFにも、大きな値上がり益は期待できないというのが基本です。過去3年ほどは、高配当株ファンド・ETFのパフォーマンスが圧倒的に良かったわけですが、これは例外的な動きと理解しておいたほうが無難です。

大きな値上がり益ではなく、安定的な分配金収入を期待する人向けの商品だと言えます。

(クルー 目黒政明)

【図表1】3ファンドの値動き(2020年1月6日=100、2023年10月3日まで)



【図表2】3ファンドのリターンとリスク(2023年8月末現在)

ファンド名	リターン (騰落率: 年率換算した数値ではない)			リスク (標準偏差: 年率)	
	6か月	1年	3年	1年	3年
日経平均高配当利回り株ファンド	21.2%	43.8%	122.8%	15.25%	14.41%
NF・日経高配当50ETF	21.9%	40.0%	123.9%	14.06%	13.48%
eMAXIS Slim 日経平均	20.1%	18.5%	48.5%	16.67%	15.79%